

第17節

आयुर्हरति वै पुंसामुद्यन्नस्तं च यन्नसौ ।
तस्यर्ते यत्क्षणो नीत उत्तमश्लोकवार्तया ॥ १७ ॥

*āyur harati vai puṁsām
udyann astam ca yann asau
tasyarte yat-kṣaṇo nīta
uttama-śloka-vārtayā*

āyuh—寿命; harati—減少させる; vai—確かに; puṁsām—人々の; udyan—昇ること; astam—沈むこと; ca—もまた; yan—動くこと; asau—太陽; tasya—主を讃える者の; rte—以外; yat—～である者によって; kṣaṇaḥ—時; nītaḥ—利用した; uttama-sloka—あらゆる面で善なる人格主神; vārtayā—～の話題の中で。

太陽は、日の出と日の入りを繰り返しながら人の寿命を減らしている。あらゆる面で善なる人格主神について語りあうことに「時」を活用している者を除いて。

要旨解説

この節は、献愛奉仕に邁進しながら、至高主との失われた絆を悟るために生活を活用する重要性についても述べています。歲月人を待たず、と言います。ですから、日の出と日の入りが暗示する「時」は、精神的価値を悟るために正しく使わなければ、無駄に費やされているにすぎません。無駄に使われた寿命は、それがほんの一瞬だとしても、金をどれほど積んでも取りもどせません。人間生活は、生命体（ジーヴァ・jīva）に精神的正体と永遠な幸福の源を悟らせるためにあります。生命体、とくに人間は幸せになろうとするものです。幸福こそが生命体本来の状態だからです。ところが、それを物質的なことで満たそうとしている。生命体はもともと完全全体者の精神的火花であり、精神的な活動をすれば完全な幸福が得られます。主は完全な精神的全体者であり、主の名前・姿・質・崇高な娯楽・主にまつわるもの・主の人となりは、主そのものです。この主の特質の一つだけであっても、正しい流れを汲む献愛奉仕をとおして触れた人には、たちまちのうちに完成への扉が開かれます。『バガヴァッド・ギーター』（第2章・第40節）で、主がそのような接触について説いています。「献愛奉仕における努力は決して無駄にならない。失敗もない。ほんの少しでも行なえば、物質的な恐れという広大な海から救われる」。薬理効果の強い

薬を静脈注射すれば、すぐに体全体に効果が現われるように、主の純粋な献愛者の耳をおして注がれた主の超越的なことばは瞬時に効果を表わします。超越的なことばが耳をおして悟られると、たとえば木が結実するとほかの部分も結実するように、完全な悟りが結果として現われます。シュカデーヴァ・ゴースヴァーミーという純粋な献愛者との一瞬のふれあいが、永遠性を追求する完璧な生涯へと導いてくれます。ですから太陽といえども、みずからを清めつづけながら、主への献愛奉仕に忙しく働いている純粋な献愛者の寿命を奪うことができません。死は、永遠な生命体に現われる物質的感染の印です。その物質的感染ゆえに、もともと永遠な生命体は生老病死という法則に縛られているのです。

慈善行為は物質的な敬虔な行為ですが、シュリーラ・ヴィシュヴァナータ・チャクラヴァルティー・タークラが引用しているように、『スムリティ・シャーストラ』で勧められています。適切な人に差し出す金銭は、来世という銀行預金を作ってくれます。その慈善はブラーフマナにするよう勧められています。ブラーフマナではない相手（ブラーフマナの質をそなえていない人々）に与えられる金銭は来世で同額の金銭となって戻ってきます。半分しか教育を受けていないブラーフマナに与えるとしても、それだけでも倍になってもどってきます。博識な人物や十分な資質をそなえたブラーフマナにあげれば、何百・何千倍にもなってもどり、さらに、相手がヴェーダ・パーラガ (*veda-pāraḡa*) であれば、限りなく倍増されます。『バガヴァッド・ギーター』(第15章・第15節)で *vedaiś ca sarvair aham eva vedyah* (ヴェーダイシュ チャ サルヴァイル アハム エーヴァ ヴェーデヤハ) と述べられているように、ヴェーダ知識の究極点は人格主神、主クリシュナの悟りです。慈善に使われた金銭は、何倍になるかは別として、かならずもどると保証されています。同じように、主の超越的なことばを聞いたり語ったりするための純粋な献愛者との交流は、どれほど短くても、永遠な生活、すなわちふるさとへ、神のもとに帰っていく完璧な保証になります。 *Mad-dhāma gatvā punar janma na vidyate* (マドゥ・ダハーマ ガトウヴァー プナル ジャンマ ナ ヴィデヤテー)。言いかえれば、主の献愛者には永遠な生活が保障されている、ということです。献愛者が歳をとったり病気になったりしても、それは保証された永遠な生活に導かれる確かなきっかけなのです。